

オーストラリア公立小学校での造形教育実践報告

1. はじめに

海外の小学校で文化交流授業を実践することは、今日では珍しいことではない。さまざまな先生方によって意欲的に取り組まれている。とはいえ、実際に海外で子どもたちの前に立ち、授業を提案することになると、実践者自身の文化への理解度が問われると同時に、造形活動がコミュニケーションツールとして大いに可能性を持っていることに気づかされる。

今夏、私はオーストラリア・メルボルン市郊外にある公立の小学校（ビクトリア州立モーベル小学校）で、文化交流授業を行った。オーストラリアの小学校では、LOTE（Language Other Than English）教育として、9カ国語の中から選択された第2言語の授業が行われる。モーベル小学校では、日本語を採択しており、日本との文化交流ということでこのような授業の機会を持つことができた。今回、私は、日本の子どもたちにも人気の造形活動をオーストラリアの子どもたちに実践してみたいと考え、「Balloon Character Making」の活動を計画した。その授業実践を通して見えてきたことを、紹介したい。

2. 造形教育実践の概要

2010年8月20日（金）午後の約1時間、モーベル小学校3、4年生60名を対象に、文化交流授業を行った。メルボルンの小学校は、日本でいうところの幼稚園年長から始まり、1、2年、3、4年、5、6年と2学年が一緒に学ぶ学年構成になっている。60人一斉授業のため、多目的ホールでの活動となった。内容は、「Balloon Character Making」と題し、ポリ袋に空気を入れ、口を輪ゴムで縛り、紙の目や口、羽や鱗などでキャラクターに見立てながら造形するというものである。

まず、空気で膨らんだポリ袋の風船を作り、これがビーチボールのように押し出したり、跳ね返したりして遊ぶことができるのを示し、確認した。次に、風船に装飾を施すべく、白地に黒丸を描いたシールを一つ円形に切り抜き貼った。「何に見えるかな」と言うと、子どもたちは、口々に魚や鳥、豚など動物の名前を挙げた。円形シールをもう一つ貼り、さらに紙の嘴、羽をつけて鳥のキャラクターを作った。紙の鶏冠を見せた瞬間、子どもたちにはそれが鶏に見えたようで、「わー」と声があがった。出来上がったものと、参考作品として準備した風船を使い、チーム対抗で玉送りのようなゲームをした。その後、実際に材料を用いて、オリジナルの風船作りを体験した。

こちらからは材料として、ポリ袋(45リットル、白・黒・ピンク・水色・透明)、輪ゴム、目玉を印刷したシール、色紙、セロハンテープを準備した。はさみは子どもたちが各自持参した。また、長いカラー紐を用意し、そこに出来上がった風船をつるし、最終的に構内に飾った。多くのスタッフの協力もあり、皆、ポリ袋をオリジナルの風船へと変身させ、活動を楽しんだ（図1）。

本授業実践については、モーベル小学校新聞の一面に紹介された（次頁 図2）。



図1 モーベル小学校での活動の様子

3. Balloon Character Making の実践から

モーベル小学校の子どもたちは、静かに先生の話聞く姿勢を持っており、反応も良く、私は授業をスムーズに進行することができた。活動にも興味を持って取り組み、素朴な質問を投げかけてきた。また、初対面の外国人に対しても構えることなく、親しみをもち接することができ、上手な日本語で挨拶をしてくれた。児童たちは、子どもらしくのびのびとしており、公立小学校といえども高いレベルの教育を受けているのだと感じた。

海外での授業では、日本から準備する材料はできるだけフレキシブルに使用できるものにし、身近な材料を使って、簡単に造形活動ができることを目指した。しかし、メルボルンではこの大きなポリ袋は決して身近なものではなく、この袋をどこで入手できるのか質問に来る子が多かった。日本では身近に見られるものも、外国では新しい材料となることを実感した。また、輪ゴムをかけて縛ったり、つなぎ合わせたりなど手先のこまかな作業についていけない子どもが多かった。材料の関係上2人一組で作業をしたところ、一緒に活動するのが不得手で、グループ活動に対する取り組み方が日本の子どもと

大分違うことが分かった。このような違いが見えたことは、今後の造形題材を考える上での課題となった。

実際の活動では、袋の張りの感触を確かめながら、空気を集め、形作りに熱心に取り組んでいる様子が見られた。目玉シールを好きなように貼ってその風船で遊び始める子、見本通りに作りたいという思いから精巧に細工を考える子、こんな風にしたいたいと相談に来る子、それぞれが自分たちの風船作りに自然に意味を見出していた。

4. 造形活動を通じた文化交流の可能性

今回は日本の文化交流ということで、何をしてもよいということであったが、実際は、対象の児童の学年も、人数も造形活動履歴も分からない状態であり、どのような実践ができるのか不安要素が多くあった。特に、現地では日本人の教師に対してどのような期待を抱いているのか、日本人と海外の人が認知している日本文化には違いがあるのではないかと、国が違うとはいえ造形活動として共通するものがあるのではないかと、という思いが交錯しつつ計画を考えた。造形活動の面白さは、これまでに見たことのない新しい形を発見し、それを自分自身の価値に照らし合わせながら意味づけし、制作者にとって何か親しみのある存在にしていこうとすることにある。この活動は万国共通ではないかと推測し、これをもとに海外の子どもたちにも楽しい記憶として残るような実践にしたいと考えた。そのため、この造形思考の流れをなるべくスムーズに体験できる題材を選んだ。印刷された目玉シールは、単なる黒の二重円である。それ自体にはほとんど特徴がない幾何学形態であるが、その組み合わせが無数の異なる顔を作っていく。技術力をさほど必要としないため、はじめて体験する人もたやすく携わることのできる本題材にした。

日本文化と言っても、私たちの普段の生活には遠い伝統文化を紹介するのではなく、今の日本の子どもたちにとっても身近で親しい活動を紹介することが、一つの文化の紹介になるのではないかと私は考えている。実際に現地で活動してみると、予想外の子どもの実態や反応に驚かされる。日本では当たり前前のことが、海外ではそうではないことを改めて実感した一方、日本の子どもたちと同じような反応を確認することもでき、さまざまな発見があった。

授業後、子どもたちの中に何が残ったのか気になった。今回の実践が、海外の子どもたちにとって、何か日本に親しみを感じるきっかけになってくれればと願う心境が芽生えた。

ものを生み出す造形活動は、発見したり意味づけたりする場であり、その中では自然に人と人とが互いの価値を認め合う交流が生じる。文化交流とは、それぞれの国の規則や決まりを知らしめることではなく、活動を共にする中で、新たな他者とのつな

がりや見えなかった自己を発見することにもある。指導者側の文化に対する包容力と人と人をつなぐ造形活動への理解が、文化交流の可能性を広げていくことになるのではないかと。

5. おわりに

本題材がメルボルンの小学生にも楽しんで取り組むことのできるものであったということは、今回の一つの成果である。

海外での文化交流授業の実践は、現地の先生やスタッフのさまざまな協力も必要であり、受け入れられる状況がなければ実現できないなどのハードルもある。しかし、実践する機会があれば、実践者自身の文化理解への意識を深めることにつながる。今後グローバル社会において、このような実践の機会は増えてくるのではないだろうか。造形活動を介して、人と人が交流する機会が増えるということは、互いの価値を認め合う場が提供されるということである。多様な価値を認めつつ自分自身の価値観を高めていくことが今後ますます望まれる。

本報告を執筆するに当たり、モーベル小学校の校長 Mr.Hunt と本授業をオーガナイズして下さった小学校教諭の Mr.Yamabe にこの場を借りて感謝したい。

3rd September 2010

ISSUE 14

PRINCIPAL'S COMMENTS

Another busy term is drawing to a close. Mr Hunt is now on well earned leave. He will return at the end of October.

LOTE

We have had Miss Azusa Suzuki assisting Mr. Yamabe in Lote for the last four weeks. She is a trainee teacher from Japan and returns home on Saturday. Azusa has had a wonderful time in Australia and is very sad to leave the friendly children from Movelle. We also had a visit from a group of Japanese teachers who ran programs across the school. All the children were engaged in activities such as Sumi Art, balloon character making and Japanese calligraphy. The visiting teachers were impressed by the knowledge of our students. Thank you Mr. Yamabe for organising these visits.

windy and cold day, the children really enjoyed the different events. Congratulations to Emerald house. They are the winners of this year's carnival. Some of our athletes will be setting off to participate in the district athletics carnival tomorrow. On behalf of the school community, I would like to wish our students well.

ART SHOW

The Art Show was fantastic this year. It was great to see the fine art work by our students. This is a huge event that requires an enormous amount of preparation and organisation. Thank you to Ms Manja Sommerling for her effort in organising the Art Show and thank you to Katie MacGuigan for all her work in Performing Arts also. Congratulations to both of you - the event was a great

図2 モーベル小学校 HP の一部(下線は著者が引いた) Movelle Primary School 5139 News, 3rd Sept. 2010, http://www.movelleps.vic.edu.au/image/b1n1/News_3_Sept.pdf より引用